Vol. 796

富山経協

スイフヨウ（解説･18ページ）

CONTENTS

2 TOP INTERVIEW
立業社　島倉憲治社長
4 政策委員会、富山地区会員懇談会（報告）
5 日本経団連講演録
6 特別講演録（笠井千秋氏／第一線管理監督者講座）
8 富山県生活環境文化部との情報交換（講演要旨）
9 調査報告
2011年夏季賞与･一時金支給状況〈最終集計〉
10 業務日誌
11 Keikyo行事レポート
12 参加者NOTES
17 新会員紹介
18 会員の動き
19 景況指標
20 INFORMATION(事業案内)
22 おしらせ･行事予定

2011 9

Top Interview

オンリーワンのサービス「何でも頼れる」会社に

株式会社 立業社
代表取締役社長

島倉 憲治 氏

立業社は青写真の焼付から始まり、現在、コピー業からの脱皮を図られています。富山県情報産業協会にも所属されていますが…。

創業者の浅田熙は、1946年に設計図等の青写真焼付事業を始めました。大きな図面になると、当時は対応できる機械も無かったので、大型精密静電複写機を自ら開発し、科学技術庁長官賞も受賞しました。その後、大手メーカーがオフィス向けのコピー機を投入されてきたため、単なるコピー業では先が見えなくなり、コピー機やＯＡ機器の販売・メンテナンス事業へ乗り出しました。

現在の事業は、複写やオンデマンドプリントの画像処理サービスと、デジタルデータ情報処理サービス、ＯＡ機器の販売・メンテナンスの３本柱になっています。

島倉社長は北陸電力のご出身です。

北電では情報システム開発業務を10年以上担当しました。水力発電所や支店、本店では情報システム部、企画室、監査役室、技術研究所も経験。立業社が情報システムの開発経験者を探していて、私は平成９年に立業社へ出向し、情報システムセンター本部長に就きました。その後、総務部長として社内外の対応に当たっておりましたが、２代目の橋本社長が急逝される直前に後を託され、社長になりました。

―デジタル処理へ転換―

オンリーワンのサービスで、「何でもコピー」から「何でも頼れる」会社に変革されてきました。

お客様から注文があったら「できないと言うな」と社員に言っています。その場で判断できなくても、持ち帰って検討する。他社ができないことをしていくことで新しい商品、サービスが提供できます。

業界全体を見ると、平成９年には750社が全国大の組合に加盟していましたが、現在は約270社。私が社長に就任した頃はすでにコピー機が普及し、パソコンも進歩して書類が電子配布されるようになっていました。コピー業界が厳しい状況に陥るのは目に見えていたので、デジタルデータ処理サービスへ業種転換を目指しました。幸い、電子ファイリングの仕事は増えています。

各種事業を展開されていますが、売り上げの構成は。

以前はコピー業務が主体でしたが、今は機器の販売・メンテナンスが主流になりました。キヤノンマーケティングジャパンの代理店としては県下で初めて「ゴールド店」に昇格しました。アフターサービスを重視し、連絡をもらったら30分以内に到着する体制を整えています。お客様第一主義で、「何

でも頼れる立業社」を合い言葉に、満足いただけるサービスの提供を心掛けています。

また、取扱商品の拡大を目指して、看板や展示会のパネルなどに使うサインボードの販売にも力を入れています。大きなものになると幅120cm×長さ20ｍの１枚フィルムに巨大写真やメッセージを出力できます。雨に濡れても、日光に当たっても色あせない特殊なフィルムで、これをＬＥＤの電飾看板等に取り付け、営業展開しています。使用電力量を節約できるのと、ＬＥＤは省エネでかつ長寿命というメリットがあります。富山空港には８枚のＬＥＤ大型サインディスプレイを納入しています。

高度な情報処理などに対応するとなると人材育成がカギになります。

社員教育は一番大事です。社員の平均年齢は40歳前後で、デジタル処理に強い人ばかりではありません。関連機関が実施する教育を積極的に受けさせています。さらに、コンピューター関係は全社員を対象に、メーカーや外部の訓練センターでの受講を義務づけています。資格取得を勧め、取得した資格に応じて手当や祝い金をつけています。

―新社屋はエコビル―

昨年９月に本社ビルを新築されました。環境に配慮したエコビルだそうですね。

これからの時代は環境に良いものでないといけないと考え、地域でナンバーワンのエコビルを目指しました。情報システムセンターがあった現在地に、新桜町にあった本社と富山支店を集結しました。屋上を緑化し、全館ＬＥＤ照明を採用、蛍光灯を使った場合に比べて使用電力量の大幅な削減になっています。

また、企業は地域社会への還元が必要であるとの思いから、４階のホールは災害時には地域の皆さんに一時避難所として開放します。市の災害時等協力事業所にも登録しました。建物は建築基準法の1.5倍の耐震性を確保し、浸水防止対策として防潮板を設置しています。また、小型の非常用発電機も備えています。

―地域に貢献、防災対応も―

大震災の前に理想的なオフィスを構えられたのは先見の明がありますね。エコビルのメリットは。

一つはコストダウンです。窓やライトコート（吹き抜けスペース）からの自然採光を活用し、トイレや給湯室はセンサーで自動点消灯します。消費電力の少ないＬＥＤ照明器具を全館に採用し、屋上と西日対策も兼ねて壁面にも太陽光発電を採用しています。

一番の省エネはエレベーターを使わないこと。必要最小限に、お客様用の１台を入口近くに設置し、社員の移動は中央吹き抜けの階段を利用します。また、井水を利用するために井水槽を設けて夏の冷房に全面的に活用したり、トイレなどの雑排水としても活用しています。一般の事務所ビルに比べてCO_2削減率は50％以上。ＣＡＳＢＥＥ（建築物総合環境性評価システム）最高のＳランクを北陸で初めて取得できました。

環境対応として電気自動車も２台導入し、営業の女性が使用しています。今夏は一部門においてサマータイムを導入し、朝７時出社、午後３時退社を実施しました。

今後はどのような事業展開をお考えですか。

画像・デジタルデータ情報処理と、ＯＡ機器の販売・メンテナンスの２本柱があり、現在、もう１本を模索中です。

座右の銘は。

「因果応報」です。前世があって我々がここにある。間違ったことをすれば後世に悔いを残す。巡り回っていることを常に思います。創業65年の歴史を誇りとして、今後もより一層お客様に愛される企業であり続けるために、常に前進していきたいと考えています。

―― 略　歴 ――

1942（昭和17）年５月生まれ。高岡市福岡町出身。富山大工学部卒後、北陸電力入社。技術研究所から、1997年立業社へ入社。情報システムセンター本部長、総務部長、取締役から、2004年現職。富山県情報複写産業協同組合理事長。

自然採光を活用し、照度を自動調整するLED照明のオフィス

会社概要

株式会社 立業社

創　　業：1946年6月
所 在 地：富山市黒崎125
資 本 金：3,300万円
事業内容：デジタル情報処理、各種複写サービス、OA機器ソフト販売
従業員数：63人（2011年5月現在）
売 上 高：約10億円（2011年5月期）
関連会社：㈱立業社・ビジネス・マシンズ
　　㈱立業社・アイディオー
ＵＲＬ：http://www.rgsg.jp/

富山地区会員懇談会

９月９日(金)、富山地区会員懇談会を153名の参加で、名鉄トヤマホテルで開催した。

第１部講演会は、富山市ファミリーパークの山本茂行園長を講師に招き、「森、ひと、いのち、地域を元気に」―富山市ファミリーパークの取り組みと、日本の動物園・水族館の目指す道―と題し、今般の東日本大震災で被災した東北地方の園館に対し日本動物園水族館協会長として支援活動をして得た教訓と、富山の呉羽丘陵全体の資源を生かして人が元気になる場所づくりに取り組むビジョンを聞いた。

第２部懇親会では、稲垣会長から新会員企業２社が紹介され、田中副会長の開会挨拶、石井県知事の来賓挨拶、稲垣会長の乾杯の後、なごやかに歓談し、町野副会長の中締めで散会した。

山本ファミリーパーク園長の講演会

田中副会長の開会挨拶

来賓の石井知事

稲垣会長乾杯

町野副会長の中締め

政策委員会

富山地区会員懇談会に先立ち同ホテルで、稲垣会長はじめ副会長、常設委員長ら９名が出席し、９月度政策委員会を開催した。

はじめに、2012年４月１日の一般社団法人移行に向けて、富山県に申請するための新定款案について審議し、全員賛成で承認された。

次に、各委員会研究部会報告があり、経営特別委員会は「企業組織のあり方ＰＡＲＴⅡ」について。人事・労務政策委員会は「若年者(中途)採用の動向」について、就職、離職を繰り返すその現状把握と原因を探り、定着化の手段を検討する。教育委員会は「ＯＪＴ・コーチングの実践事例」について、事例発表、情報交換、企業見学、アンケートを行い、特徴や優れた点を検討する。環境委員会では「地球温暖化対策」について、取り組み事例を情報交換し、その内容をまとめるとの報告があった。

また、今年度の最低賃金審議会の審議結果、ならびに2012年度県内経済４団体新春互礼会を来年１月４日に開催することを確認した。

北陸三県経営者協会正副会長会議

７月14日(木)、北陸三県の経営者協会正副会長13名が出席して、2011年北陸三県経営者協会正副会長会議を、福井県セーレン㈱生活科学総合ステーションにおいて開催した。富山経協からは稲垣会長含め５名が出席した。

福井経協 山崎会長の挨拶の後、川田相談役（セーレン社長）より、1988年の社長就任後に実施してきた、①主力事業であった染色から非衣料、非繊維化への企業構造の改革、②繊維加工技術を基盤とした多分野にわたる新事業創造の取り組みは、2010年度売上の新商品比率が90%になるなどの成果が出てきた。また、この改革を進めるために仕掛けてきた、①社員の意識を変える、②問題を顕在化することによる仕事の見える化を進める、③役職上位者に仕事をさせる組織づくりなどの具体的な取り組みについて説明を受けた後、新商品比率90%を具現化している開発・企画部門と、マルチメディア時代に対応し時間差ゼロのプロダクトシステムを可能にしたビスコテックスの生産部門を見学した。

その後、「いたや」に移って情報交換の懇親会。福井・山崎会長の挨拶の後、富山・稲垣会長が乾杯の発声をし、次期開催県である石川・菱沼会長の中締めで散会した。

「最近の労働政策」
－ 今後の高齢者雇用のあり方について －

社団法人 日本経済団体連合会
労働政策本部　本部長　　高 橋 弘 行 氏

昨年の６月に政府が示した新成長戦略の中で、2020年度までの目標として、60歳から64歳までの就業率を63％とすることが示されています。併せて、この目標を達成するための工程表が示され、これに基づき、今年の６月に厚生労働省に置かれた「今後の高年齢者雇用に関する研究会」で報告書がまとめられました。今後、９月から労働政策審議会で必要な見直しを図るための検討が行われることになっており、来年の通常国会への改正法案の提出が予定されています。

研究会報告のポイントとして、今回の報告書では明確に施策の方向性を打ち出しているという点で大きな特徴があります。とりわけ、「雇用と年金を確実に接続させることが課題であり、特に定年制の対象となる者については、企業の社会的責務として、雇用と年金の接続を図るべきである」との基本的な考え方が示されていますが、雇用と年金の接続を「企業の社会的責務」とする考え方は、あまりにも言い過ぎであり、誠に遺憾であると考えています。また、具体的な施策の進め方として、①法定定年年齢の65歳までの引き上げと、②希望者全員の65歳までの継続雇用の２つを挙げています。①については、今回の見直しで踏み込まないことが明確に読み取れる書き方がなされています。一方で法定の定年年齢を引き上げないとなると、希望者全員の65歳までの雇用を確保するために、ほとんどの企業が実施している継続雇用制度において、現行制度で認められている基準制度が問題となってきます。この点について、報告書では、「基準制度は希望者全員の65歳までの雇用確保を実現するための、いわば過渡的な措置であるものとして、廃止すべきである」と明確に結論づけています。

今回の報告書の内容は、ほとんど連合の考え方と同じであり、研究会の報告書について連合は大変評価をしています。なお、連合としては、高齢法について私法上の効力を持たせるよう主張してきましたが、報告書はこの点については否定しています。

経団連では、今回の研究会報告を受けて、翌７月に提言を発表しました。今回の報告書の内容には大変な違和感があり、「雇用の維持拡大には持続的な経済成長・企業の成長が不可欠であり、年金の支給開始年齢の引き上げへの対応は企業だけに求めるものではなく、個別企業のみに過大な責任を求めれば企業の競争力が失われる」とした上で、高齢者雇用を取り巻く環境は多様であり、労働市場全体を通じて高齢者の雇用の場を確保していく、また個別企業でいえば労使での話し合いや取り組みを尊重していくことが必要であるとしました。

結論的に経団連として求めていることをまとめますと、「継続雇用における労使協定による基準も含め、現行の雇用確保措置の３つの選択肢は今後も維持されるべき」ということになります。このベースにある考え方としては、

①基準の必要性については労使自治の観点があり、実際に基準を設けている場合も必要以上に選別的な機能を有している実態にないこと。
②基準を設けることで60歳までの従業員のモチベーションを維持することにもつながること。
③労働契約はお互いの合意に基づいて締結されるものであり、一方当事者の希望のみにより雇用が確保されるのはおかしいといえること。
④法定定年年齢は、現在８割以上の企業が60歳定年という現状を考えれば、とても引き上げる状況にはないこと。
⑤定年年齢を引き上げるとなると、年功的な賃金制度や退職金制度、人事配置などが絡んでくるので簡単な話ではなく、賃金カーブの変更を行うなど必要な見直しをする場合でも、不利益変更などが許容されないため難しいと考えられること。

といったことが挙げられます。

その上で、基準制度については、同一企業内原則というものを改めて、子会社間や資本関係のない企業、大企業から中小企業といった移動も含めて雇用確保を図る場合にも認めていくことや、セーフティネットの充実を図ることなどを求めています。

こうしたことを踏まえて、今後、労働政策審議会での議論に対応していきたいと考えています。

特別講演（要旨）

企業経営を成功させるには

社団法人 富山県経営者協会　副会長
株式会社 タカギセイコー　代表取締役社長　笠井 千秋 氏

今日は経営者の立場で、企業経営を成功させる５つのポイントについてお話をさせていただきます。

１．企業理念

企業は目的をもって事業を行う存在です。成長企業には成長するにふさわしい企業理念が、社是や社訓などとして掲げられています。達成することが難しいけれども目指していくもので、終生達成されることの無い悲願への持続する意志という見方もできるでしょう。

企業理念の中では創業精神も欠かせないものです。素朴で意欲的で動的な精神は、企業の成長に欠かすことのできないものです。

日本の戦後に急成長した企業の一つ、ホンダの企業理念は成長するにふさわしいものがありました。社是は「わたしたちは、地球的視野に立ち、世界中の顧客の満足のために、質の高い商品を適正な価格で供給することに全力を尽くす」。本田宗一郎さんは「理念なき経営は罪悪であり、経営なき理念は寝言である」と、理念と経営は両立が必要であると言っています。ここでいう理念のベースには「世のため人のため」、道徳・倫理があります。

成功した企業に共通しているのは、経営者が一貫した目標を堅持していること。切に思うことで初めて企業経営は成功します。また、渇きが企業を成功に導きます。渇きとは悲しく苦しい体験を経て得られた思いで、苦しい体験ほど必ず将来、生きてきます。

難局に遭遇しても、過去の苦しみに比べれば、乗り越えられると思う訳です。色々な経営者を見ても、極限的体験をした人はいざという時に、動じないで配下の人間の信頼を集めて仕事を決断していくことができるのだと思います。

２．組織の革新

企業は、個人ではできなかったことを成し遂げようとする集団です。そこにはある目的のために組織が編成されなければなりません。ただし、組織は一旦つくられると必ず肥大します。現状の組織から得られる利益を守るために組織を維持拡大する方向に動いてしまう。しかし、企業の外にある環境は必ず変化していくので、それに合わせて常に革新して行かなければなりません。

そのために、当初の目的が達成されたら、すぐに解体して新しい組織を編成し直すというのが、本来あるべき姿です。今の流れとして、従来の階層的な組織から水平分布に、中央集権的な大きな本社から、独自の判断で各部署が責任を持つ分権的な組織。環境の変化に対する決断を早めるために、ボトムアップ組織からトップ主導型の組織に変えるようになってきています。理想的なのは、必要最小限の管理的組織は残して、プロジェクトチームとタスクホースの活用です。これは一時的な任務の遂行のために編成される組織で、任務が完了すれば解散するような組織が良いとされています。

革新には必ず抵抗勢力が現れます。現状維持で利益を得ている勢力。それを変えなければならず、それには知識ではなく、勇気、やり遂げようとする意志が必要です。

そして、組織を常に新鮮に保つには、社員の個性を最大限に発揮させることによって道は開けます。組織の中の人の活性化のための能力開発が重要になります。

３．社員の能力開発

企業にとって必要な人材とは、単に才知が優れている人ではなく、使命感を持っている人。自分の与えられた職場において最後までやり遂げようとする責任感の強い人が、企業の成長を支えます。

使命感を持った責任者としての中堅幹部を育てるにはどうしたらいいか。経営者が期待し信頼していることを伝える。経営方針を徹底させて方向を誤らないように指導する。経営者が成果に関心を持ち、励まし、一層向上させるために自己啓発の機会を与える、などがあります。

さらに、例え失敗した場合でも敗者復活の仕組みを用意している。時に能力に合わない職場である可能性もある。また、偶然世の中の景気が悪くなった、取引先の調子が悪くなったということもあります。そこで諦めてはいけません。必ずその幹部には向いている仕事もあるだろうし、何度か次の仕事にチャレンジしていただく仕組みを用意することが必要です。理想は、思う存分に能力を発揮できる

仕組みをつくるということです。

4．戦略・戦術

企業の戦略・戦術のベースになっているのは、中国の三国志やローマの興亡史など、過去の大きな戦闘の歴史です。

日本が第二次世界大戦で負けた原因は複合的であり、絞り込むことは大変難しいのですが、私なりに考えると、参謀の企画力が無かった。トップの判断で負けた。これ以外の部分、実践部隊の強さは際立っていたと言われます。

日本の兵は何故強かったのか。童門冬二『「作戦要務令」の新しい読み方』に的確に書いてあります。私が社会人になったばかりの頃、日本興行銀行の上司に、旧軍隊の幹部教育を学ばれた方が何人かおられました。その教えには今でも通用するものがあります。

学んだことで従来から心がけているのは、「将校に指示命令するのであって、兵に命令はするな」「しかる場合には将校をしかれ」。これは、飛び越えて支持命令することは、中間管理職の役割をマイナスにするということ。中間管理職はやる気をなくし、部下は信頼しなくなる。この点は注意しなければならないと、心がけています。

作戦要務令には、戦いに勝つ基本姿勢はハードとソフトの絶妙な「総合戦法」、あらゆる力を総動員して、敵に勝る威力を一点集中し、そこから突破するということが書いてあります。日本が負けたのは、戦略を小出しにして逐次投入したためです。

リーダーの統率力については、決断と独断の鉄則、状況変化との兼ね合いが、強さの前提になります。決める時はサッと決める。適時的確な決断と、部下にも独断の余地を確保しておくことが必要であります。

命令と報告については、命令は簡潔に、意図と目的だけを提示し、行動はしばらない。これは、部下が命令の意図を理解してその通りに動く命令を発しなければいけないということです。報告は次の戦闘に備えて、まず結果を要約してすばやく行う。詳細は時間がある時にしてもらう。報告は部下からで、説明は上司がする。下からの報告は断片的であってもまずはもらい、それを集約して上から説明するということが必要です。

組織の生命は「機動力」にあります。「ヘッド」をフル回転させるためには、中堅幹部間のネットワーク網をつくる必要があります。各種情報伝達の媒体がありますが、その特性に応じて重要な伝達は複数経路で伝える必要があります。

情報戦を勝ち抜く法則として、表と裏を知る、相手を知る、結論は一つではない。戦争の場合、敵は間違った情報を流すこともあるので、手段を尽くして敵の情報を入手することが必要です。結論は一つではないということを肝に銘じる必要があるということです。

5．第一線管理監督者の指導力行動力

企業経営を成功に導くのはトップでも企画部門の参謀でもなく、現場で指揮を執る皆さんの強さが最終的に企業経営を成功に導きます。第一線管理監督者の指導力行動力は、強い責任感と強い意志を持って、部下に慕われる徳を持ち、どんな困難にも動じない。そうなるために、己を磨いてください。

6．その他

経営者のものの考え方に関して参考になる言葉を紹介します。

まず、失敗から学ぶということ。新田次郎の小説『八甲田山死の彷徨』では、「準備不足と指揮権の混乱が失敗の原因」。極限状態の中で、指揮権の乱れがよくないということを言わんとしています。

「経営もまた整理することであり、片付けることであろう」。的確な判断をするためには、やはり頭の中の整理整頓を常に心掛けていることが必要です。

「経営は意思決定の連鎖、張り詰めた意志の所産、言い換えれば終わることの無い心の旅」。そう思って自分を外から見つめるということも必要です。

「経営者とは部門にとらわれないで社内の人をもっとも公平な立場で眺める人」でないといけません。

「経営者として最も大切なことは強靱な意志を持って初心を貫くことであり、死に物狂いで仕事をすることである」。今の日本企業は、六重苦ともいえる大変な状況にあります。ただ、こういう試練はいつの時代にもあった訳で、試練を乗り越えることによって企業体質が強化されます。

企業の一番の目的である、存続と拡大、そこで働く従業員の雇用を守り、働きがいのある職場をつくるということを目指し頑張っていかなければなりません。みなさん、いずれ経営者になられる方も多いと思いますが、何かの参考にしていただければと思います。

講演要旨

富山県生活環境文化部との情報交換

8月26日、環境委員会（記事は16頁掲載）

地球温暖化対策等に関する富山県の取組みについて

環境政策課 地球環境係長　中山　純一

本県の2008年度の温室効果ガス排出量は13,178千ｔ-CO_2（速報値）と、とやま温暖化ストップ計画の基準年度（1990年度）比で17.6％の増加となっている。部門別のCO_2の排出状況は、産業部門は90年度比2.8％増に留まっているが、民生業務部門は同74.1％増、民生家庭部門は同60.9％増となっており、これらの部門の対策が重要であるとともに、排出量全体の約半分を占める産業部門の対策も引き続き必要となっている。

県では、家庭や事業所の地球温暖化対策を推進するため、様々な事業を展開している。

家庭向けでは、住宅用太陽光発電システムの補助や高効率給湯機等の省エネ設備のモデル導入に対する補助のほか、家庭の省エネ診断を行う「うちエコ診断」を実施している。

また、事業所向けでは、中小企業の省エネ設備のモデル導入に対する補助、省エネサポートデスクの設置、省エネ診断等を実施しているほか、温室効果ガスの削減にもつながる一般廃棄物（ごみ）の２Ｒ（リデュース、リユース）の取組み強化に向けて、事業所における２Ｒの取組状況や効果的・先進的な取組事例を把握するための実態調査の実施を予定している。

地球温暖化対策は「待ったなし」の課題であり、今後とも皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

環境行政施策の動向について

環境保全課 課長補佐　　中島　浩薫

1 地下水の保全

近年、消雪設備の普及により、冬期間に著しい地下水位の低下が見られることから、冬期間の適正揚水量について調査検討を行うとともに、今冬、節水対策アドバイザーによる消雪設備の診断を行い、民間消雪設備の設置者に直接節水の実践を促すことにしている。

2 水環境の保全

施設の老朽化や管理の不徹底により、油の流出などの水質汚濁事故が年間数十件程度発生していることから、国、県、市町村等の関係機関で構成する富山県水質汚濁事故対策連絡会議を設置し、「水質汚濁事故対応ハンディマニュアル」の作成など事故時の対応力の強化を図っている。

3 大気環境の保全

エコドライブとやま推進協議会を中心として「エコドライブ推進大運動」を展開しており、昨年10月からは携帯電話やパソコンから走行距離と給油量を入力することにより、燃費の推移を把握できる「とやま燃費管理支援サイト」を開設し、エコドライブのさらなる拡大と定着を図っている。

また、星空の観察（スターウォッチング）を通して、空気のきれいさや街のあかりなどについて考え、身近な環境保全活動の実践を呼びかけるため、「とやまスターウォッチング」事業を展開している。

環日本海地域における環境保全の取組み

（財）環日本海環境協力センター（NPEC）
九澤　和英

私たちに豊かな恵みをもたらしてくれる日本海の環境を将来にわたって保全していく必要がある。しかしながら、日本海は陸地に囲まれた閉鎖性が高い水域であり、汚染物質の蓄積や海洋ごみの漂着など解決すべき環境問題がある。

このため、日本、中国、韓国及びロシアの４カ国は、国連環境計画（UNEP）が策定した北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）に基づき、海洋環境のモニタリングなど様々な取組みを進めている。

一方で、地域レベルの取組みも重要になっており、2007年12月に地方都市としては初めて富山県で開催された「日中韓三カ国環境大臣会合」に合わせて「北東アジア環境パートナーズフォーラム」が開催され、地域の産学官が連携して国際環境協力を進める「とやま宣言」が取りまとめられた。

NPECでは、この宣言を踏まえ、富山県などと連携して、黄砂や海洋ごみに関する調査、環境保全に関する情報交換、青少年への環境教育などを進めている。本年６月には「環日本海・環境サポーター」の募集を開始した。皆様にも登録いただき、身近な環境保全の取組みを実践いただきたい。

水と緑の森づくりの取り組み

農林水産部 森林政策課　山下　大樹

県では、2007年４月に導入した「水と緑の森づくり税」を財源として、県民全体で支える多様な森づくりを進めている。

これまでに、集落周辺の利用されずに暗くなった里山を地域住民との協働で明るい林にする里山林の整備については、2011年度までの目標1,000haに対し、今年度末までに約1,300ha整備することとしている。また、手入れ不足や風雪被害を受けた人工林を、木材生産よりも水土保全機能など公益的機能の維持・向上に着目し、針葉樹と広葉樹が混在した森林へと誘導する混交林の整備については、2011年度までの目標1,000haに対し、今年度末までに約700ha整備することとしている。地形が急峻で作業効率が上がらないため整備は遅れ気味となっている。さらに、「とやまの森づくりサポートセンター」では、森づくりに必要な機器の貸し出しや、作業の技術講習を行い、森林ボランティアや企業の皆さんによる活動を支援している。その結果、森づくりの年間参加延べ人数は、2010年度は約1万人となるなど、2011年度の目標６千人を大きく上回っている。

今後とも、豊かなとやまの森を守り育て、健全な姿で次の世代に引き継ぐことができるよう努めてまいります。

2011年 夏季賞与・一時金支給状況〈最終集計〉

1. 県内

101社平均435,345円、昨年比微増ながら製造業が回復を牽引

「2011年夏季賞与・一時金支給状況」（単純平均・最終集計）をまとめた。その結果は、集計可能な101社の支給額平均は435,345円で、今回回答のあった企業の昨夏の支給額（420,715円）と比べると、金額で14,630円増加し、増減率でプラス3.48％となっている。しかしながら、リーマンショック前の2008年実績50万円台にはまだ及ばぬ状況である。

業種別では製造業が 448,057円（昨年比 5.12％増）、非製造業が 418,876円（昨年比 1.29％増）であり、製造業が金額・増減率とも上回っており回復を牽引している。しかしながら、前年比減額の企業もあり、業種間・企業間に温度差が見受けられる。**（表１）**

2. 全国大手

158社単純平均718,696円、昨年夏の調査比4.28%増

日本経団連が７月28日に取りまとめた「2011年夏季賞与・一時金妥結結果」（単純平均・最終集計）によると、調査対象の全国大手企業（主要21業種、大手188社）のうち、集計可能158社の妥結額平均は718,696円で、2010年夏の最終妥結実績（163社、平均689,222円）と比べると、金額で29,474円（昨年比4.28％増）の増加となっている。しかしながら、非製造業平均のほか、製造業でも一部業種で昨年比マイナスとなっている。**（表２）**

（表1）県内企業の2011年夏季賞与支給状況［単純平均］

〔最終集計〕　（社）富山県経営者協会

業種	社数（社）	2011年 夏季 支給額（円）	2010年 夏季 支給額（円）	前年同期比（％）
繊維	2	432,500	375,250	15.26
印刷	3	260,500	256,667	1.49
化学	12	659,907	669,186	△1.39
プラスチック製品	5	333,473	337,399	△1.16
鉄鋼・非鉄金属	1	－	－	－
金属製品	7	381,167	392,170	△2.81
一般機械器具	10	427,369	315,736	35.36
電気機械・電子部品	4	347,204	365,936	△5.12
輸送用機械器具	4	528,920	442,294	19.59
その他製造業	9	351,129	346,950	1.20
建設業	6	198,958	212,283	△6.28
電気・ガス	3	795,184	799,115	△0.49
運輸・倉庫	9	358,050	361,459	△0.94
情報サービス・通信	4	619,756	631,096	△1.80
卸・小売	12	425,650	395,067	7.74
金融・保険	1	－	－	－
サービス業・その他	9	390,403	382,454	2.08
総平均	101	435,345 （482,621）	420,715 （463,614）	3.48 （4.10）
製造業平均	57	448,057 （441,961）	426,241 （401,421）	5.12 （10.10）
非製造業平均	44	418,876 （516,288）	413,557 （515,477）	1.29 （0.16）

（注）
①調査対象は423社、うち集計可能な回答のあった101社の数値である。
「2010年夏季」は今回回答のあった企業の昨年同期の数値である。
②平均欄の上段は一社当たりの単純平均、下段の（　）内は一人当たりの加重平均である。
③当該業種1社のみの回答の場合は数字を伏せているが、平均には含む。
④前年同期比の△印はマイナスを示す。

（表2）全国大手企業の2011年夏季賞与・一時金妥結結果［単純平均］

〔最終集計〕　（社）日本経済団体連合会

業種	2011年 夏季		2010年 夏季		前年同期比（％）
	社数（社）	妥結額（円）	社数（社）	妥結額（円）	
総平均	158	718,696 （791,106）	163	689,222 （757,638）	4.28 （4.42）
製造業平均	132	713,406 （793,030）	134	672,797 （741,395）	6.04 （6.96）
非製造業平均	26	745,552 （785,008）	29	765,116 （804,706）	△2.56 （△2.45）

（注）
①調査対象は主要21業種・大手251社。東証一部上場、従業員500人以上が原則。
「2010年夏季」は昨年の本調査の最終集計結果である。
②上段は一社当たりの単純平均、下段の（　）内は一人当たりの加重平均である。
③前年同期比の△印はマイナスを示す。

業務日誌　　2011年 7月11日～9月10日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会議	教育委員会・研究部会（第2回）	教育	7月11日(月)	三菱レイヨン㈱富山事業所	10名
	富山県工業教育振興会総会		7月19日(火)	名鉄トヤマホテル	69名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	7月22日(金)	㈱不二越滑川事業所	16名
	人事労務政策委員会「メンタルヘルス研究部会」	人事･労務政策	7月22日(金)	富山経協・研修室	10名
	環境委員会第2回情報交換会	環境	7月27日(木)	富山経協・研修室	11名
	環境委員会「幹事会」	環境	8月 9日(火)	富山経協・研修室	10名
	文化交流委員会「定例委員会」	文化交流	8月10日(水)	明治安田生命富山ビル	14名
	教育委員会・研究部会（第3回）	教育	8月17日(水)	富山経協・研修室	8名
	教育委員会「定例委員会」	教育	8月17日(水)	富山経協・研修室	17名
	総務委員会「定例委員会」	総務	8月19日(金)	富山電気ビル	11名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事･労務政策	8月24日(水)	富山経協・研修室	28名
	経営特別委員会	経営特別	8月26日(金)	富山経協・研修室	11名
	政策委員会		9月 9日(金)	名鉄トヤマホテル	9名
	富山地区会員懇談会		9月 9日(金)	名鉄トヤマホテル	153名
セミナー・講座	第1回第一線管理監督者講座（係長・主任クラス）	教育	7月13日(水)	富山商工会議所ビル	49名
	第1回第一線管理監督者講座（部課長クラス）	教育	7月14日(木)	富山商工会議所ビル	48名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	7月14、28日(木)	富山経協・研修室	33名
	第2回第一線管理監督者講座	教育	7月21日(木)	富山商工会議所ビル	81名
	人事・労務管理セミナー（第2回）	人事･労務政策	7月22日(金)	富山経協・研修室	33名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	7月28日(木)	富山経協・研修室	33名
	第3回第一線管理監督者講座	教育	7月28日(木)	富山商工会議所ビル	88名
	品質工学実践講座	品質管理	7月29日(金)	富山経協・研修室	17名
	管理職マネジメント研修 第3期同期会	教育	8月 3日(水)	富山経協・研修室	21名
	県外企業見学研修会	環境	8月 3日(水)	小松精練㈱、ニッコー㈱	29名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	8月4日、25日(木)	富山経協・研修室	33名
	女性社員キャリアアップセミナー	教育	8月 5日(金)	富山商工会議所ビル	54名
	文化交流委員会「企業見学会」	文化交流	8月10日(水)	明治安田生命富山ビル	14名
	品質工学実践講座	品質管理	8月19日(金)	富山経協・研修室	17名
	県生活環境文化部との情報交換	環境	8月26日(金)	富山経協・研修室	29名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	9月 1日(木)	富山経協・研修室	33名
	ＴＱＭ経営者トップミーティング	品質管理	9月 2日(金)	富山第一ホテル	18名
	品質管理入門コース講座（第2回）	品質管理	9月 7日(水)	富山経協・研修室	29名
	女性リーダーキャリアアップセミナー	教育	9月 8日(木)	富山経協・研修室	24名
	第116回会員交流ゴルフコンペ	文化交流	9月10日(土)	呉羽カントリークラブ（立山）	16名

経営特別委員会

■2011年度 第３回委員会

８月26日(金)、守山委員長はじめ委員11名が出席して、富山経協・会議室で開催し、企業理念見学会、連合富山との協議会、一般社団法人移行後の委員会運営について審議した。

守山委員長の挨拶の後、新委員として、富山地方鉄道　中田氏、北陸電気工事 富田氏、北陸電力 灰谷氏を紹介した。事務局より、①企業理念見学会の参加申し込み状況、②連合富山との協議会を当委員会が担当となり立ち上げる。第１回協議会を10月６日で計画している。③一般社団法人に移行後の委員会のあり方については他委員会の動向を踏まえ、来年４月立ち上がりで委員会規定など準備を進めていくと説明をした。審議に入り、①企業理念見学会は初回でもあり、実施しながら改善をしていく。②連合富山との協議会は当委員会が担当となり第１回目を実施する。内容については事務局同士で打ち合わせを行う。③委員会のあり方については、他委員会の動向などを適時事務局は報告する。12月委員会では規定などについて審議を行うことを決めた。また、委員会以外の行事が増えていることもあり、当面は当委員会主催行事の企画・実施・参加を優先することが決まった。次回委員会は12月に開催する。

総務委員会

■定例委員会

８月19日(金)、武内委員長はじめ委員11名の出席により、富山電気ビルで開催した。

冒頭、武内委員長より就任の挨拶と共に、副委員長として新たに山田岩男氏（富山電気ビルデイング）に就任いただき、須垣純夫氏との二人体制とする旨の報告の後、事務局から議案説明を行い、審議した。

(1) 富山経協の現状

会員数推移など事業活動の現況と、一般社団法人への移行スケジュール。

(2) 2011年度事業中間報告

総務委員会（社内コミュニケーション部会、総務部会を含む）の事業実施状況および今後の予定。

(3) 情報調査業務について

会員サービス強化のため、「情報・調査」が当協会の大きな役割となる。これまでは事務局主体で取り組んできたが、今後は当委員会が主管することとし、「円高対策」の調査実施について審議を行った。

人事・労務政策委員会

■定例委員会

８月24日(水)、綿貫委員長はじめ28名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

綿貫委員長の挨拶の後、講師に(社)日本経済団体連合会労働政策本部本部長　高橋弘行氏を招き、「最近の労働政策－今後の高齢者雇用のあり方について－」と題した講演を聴いた。**（講演要旨は５頁掲載）**

高年齢者雇用安定法により、2013年度までに段階的に65歳までの雇用確保処置が義務付けられている。一方、2013年度から公的年金支給開始が65歳へ引き上げられ、年金支給開始までの５年間無年金、無収入となる者が生じる可能性がある。政府の研究会では、意欲と能力のある高年齢者が年齢に関わりなく働ける「生涯現役社会」を実現すべきとし、希望者全員が65歳まで働けるよう、雇用確保を確実に進めることを急務とし、企業負担を求める取りまとめをしている。

経団連では、「社会全体で高齢者雇用対策に取り組むべき」とし、若年者雇用への影響など労働現場の実態との整合性をとり、労働市場全体の機能を発揮して取り組む必要があるとしている。

次に、北陸電力から「志賀原子力発電所の津波に対する安全強化」について説明があり、事務局から上期活動状況報告、下期活動予定、ならびに最低賃金審議状況、富山経協の現状報告があった。

■人事・労務管理セミナー（第2回）

７月22日(金)、「メンタルヘルス実践対応～管理監督者が現場で取るべき基本的対応方法～」をテーマに

33名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の公益財団法人日本生産性本部メンタル・ヘルス研究所所長代理今井保次氏は、メンタルヘルスの現状や管理者の役割として最低限は身につけたいメンタルヘルス対応の基本的な考え方、現場で取るべき基本的な対応方法（危険信号の見分け方から復職に至るまで）について、最新のトピックを織り込みながら詳説した。

教育委員会

■定例委員会

８月17日(水)、金岡委員長はじめ16名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

金岡委員長は、円高や電力問題など製造業を中心に経営環境は厳しさを増している。ものづくり企業は生産拠点の海外シフトも具体化してきているが、海外に出るにしても異国の地でマネジメントできる人材が必要、国内にとどまるにしてもコストダウンや生産性の向上を指導する人材が必要であり、今まで以上に教育の役割が重要になっている。そうしたことを踏まえて企業が必要とする人材を育てる使命の一翼を当委員会が担っていると挨拶した。その後、2011年度富山経協の現状について説明があった。

また、教育委員会の2011年度事業報告(中間)と今後の予定について、①委員会活動は、研究部会が「ＯＪＴ・コーチングの実践事例」をテーマに11社で３回開催。研究の進め方として、各社の取り組みについて事例発表・情報交換・企業見学を行い、特徴や優れた点についてベンチマーキングしている。今後、アンケートを実施して深掘りを進める。そして、部会各社の情報交換や優れた実践企業事例を集め、事例と課題をまとめた小冊子を１月に発行する予定。②講座･セミナーは４～８月実績は全体的に増加傾向で推移。４年目となる管理職マネジメント研修は24名を超える人数で実施の予定である。

次いで、参加企業の「ＯＪＴ・コーチングの実践事例」について現状把握や意見交換を行った。各社の実践事例や問題・課題は、研究部会活

参加者NOTES

教育委員会

「第一線管理監督者講座」を受講して

（部課長対象）

株式会社 廣貫堂（本社工場）
生産本部 製造２グループ　マネージャー　条谷　憲一

「管理監督の意味とは」の渡辺講師の質問に何を答えてよいか分からない自分がいました。受講するまで、管理監督者とは何をしてよいか分からず、いろいろ考える時期もありました。「組織の目的・目標を達成することが管理監督の使命」といわれた時に、これまで曖昧だった「管理監督」の意味が明確になりました。

組織の目的・目標を達成するためには「人」について知る・関心を持つ・理解することが大切であるということです。例えば「人資源の三側面」について、組織が危機的状況になった場合、人を道具的に扱う必要がある。そういわれた時に、自分は出来ないと思いました。しかし、みんなが納得のいく回答が出来れば人は道具的に扱われてもついてくるということです。「指令系統の統一」について、上司を飛び越して部下に直接指示を出すことで、上司のやる気がなくなる。自分が当事者の立場になったとき「自分は信用されていない」と思い、上司への不信感が生まれ、やる気をなくすと思いました。「態度」について、身体的態度と精神的態度がある。態度が悪い部下は悪い人という偏見がありましたが、部下の態度が悪いのは自分の態度に問題ありと考えるようになると、部下の善し悪しを態度で決めることがなくなりました。「管理者の立場と役割」について、部下からのどうしますかの「問い」を受けるべきではない。的確な回答をするのが管理監督者の役割と思っていたのですが、そうすることで考えさせることもなく、書かせることもなくなり、部下の育成が出来ていないことも分かりました。具体例では気付かされることばかりで、「人」について全く理解出来ていないことが分かりました。これまで分かっているつもりでいたことが恥ずかしいです。

過去の自分をふり返ると「もっとこうしておけばよかった」と思うことが沢山あり、もっと早く受講していたらと思える講座でした。「蛸壺状態になっていませんか」「超多忙だと思いますが部下とのコミュニケーションを大切にして下さい」の渡辺講師の言葉を思い出します。まずは、職場でのコミュニケーションを大切にすることから始めようと思います。

動に反映させる。

■第一線管理監督者講座（第41回）

７月13日（火）から28日（水）まで全３回４日間の日程で、延べ266名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

初回は係長主任と部課長の二手に分かれ、（社）日本産業訓練協会　渡辺和彦MTP・TWAインストラクターの指導により、経営環境が激変するなか企業目標を達成するため、レクチャーに加え、グループによる事例研究や発表、意見交換などを活発に行った。

２回目は、コーセル㈱大坪晴樹人財支援課長から「階層別ＯＪＴ実践勉強会」と題した発表があり、その後、各社の部下育成について情報・意見交換を行った。

最終日には、当協会副会長の㈱タカギセイコー笠井千秋社長から「企業経営を成功させるには」と題した特別講演（**６・７頁に掲載**）を聴き、企業経営とマネジメントのあり方について学んだ。

（**「参加者NOTES」12、13頁掲載**）

■女性社員キャリアアップセミナー

８月５日（金）、一般職の女性社員54名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

金城大学短期大学部　岡野絹枝教授から、中堅社員としての役割と立場、女性のキャリアとこれからの働き方、自分の棚卸しとキャリアデザイン、仕事を進めるためのコミュニケーションのスキルアップなどについて、レクチャーやグループワークを通して学んだ。プロフェッショナルな社員としての役割を強く認識し、職業能力を積極的に開発し、仕事に対して常に前向きに取り組むことが重要であるとした。

（**「参加者NOTES」14頁掲載**）

また、９月８日（木）には、リーダー・指導職の女性社員を対象に、リーダーとして、部下や後輩の指導育成、職場の活性化、ワークライフと自己実現などについて学ぶ「女性リーダーとなるためのキャリアアップセミナー」を開催した。

参加者ＮＯＴＥＳ

教育委員会

「第一線管理監督者講座」を受講して

（係長・主任対象）

株式会社 スギノマシン
輸出管理部輸出管理課　チーフ　大上　卓男

このたび全３回に渡って受講し、管理・監督とは、態度能力とは、そして自己啓発や教育とは何かを学びました。講義のみならず、グループ討論を通じて異業種の方々の貴重な意見や体験を拝聴するなど、とても有意義な３日間でした。

渡辺講師のおっしゃった「最も重要な経営資源は人である」という言葉が、今でも心に残っております。さらに印象的だったのが、人資源の３側面における道具的切り口です。一刻を争うとき、危急存亡の秋（とき）、部下の心情や主義主張を都度斟酌していては間に合いません。このような場合、上司の権限で有無を言わさず（道具のように）業務に就かせる厳しさが必要であり、部下のやる気を損なわずにこれを行うには、日頃の対話に根差した上司と部下の相互理解と信頼関係が必要であると教わり、「なるほど」と感嘆致しました。

また、自分は今まで、業務上の様々な知識や技能を独力で習得したことは一度も無く、その全てに於いて上司の理解と委任と、時には指導が不可欠であったことを、今回「権限委任のサイクル」を学んだことで再認識しました。部下に対し自身も斯く在らねばと、深く感じた次第です。

その他にも、

○情熱をもって科学的・合理的見解で部下を説得する一方、客観的視点を保ちつつ彼らの話を公正かつ積極的に傾聴する。
○主張の背景を洞察し、助言し、様々に率先垂範することで、部下の自発的行動と成長を促す。
○部下の成長には、上司の成長が不可欠である。

などとあり、これらは対人関係をより良く形成する上での基本であると同時に、その極意でもあると感じました。上司と部下との関係、社内外の対人関係に留まらず、地域社会や家族との在り方に於ける重要なヒントを示唆して頂けたのではないかと思っております。

今後は、本講座で得た知識や考え方などを踏まえ、これらを自分なりに発展・実践することにより、後進の指導に努めて参る所存です。

品質管理委員会

■定例委員会

７月22日(金)、町野委員長はじめ委員16名が出席して、㈱不二越滑川事業所において開催した。

今回は今後の事業計画について審議。各講座担当委員は受講者を増やす観点も含めて講座を見直し、次年度計画に反映していくこととした。

委員企業見学では、㈱不二越滑川事業所の中田カーハイドロリクス事業部長から企業概要、カーハイドロリクス事業の概要、品質管理取り組み状況について説明を受け、自動車用ソレノイドバルブ・油圧ユニット等の製造工場を見学した。見学後、質疑応答ならびに意見交換を行った。

■部課長マネジメントコース講座

７月６日(水)～８日(金)２泊３日で、23名が参加し、山田交流促進センターを会場に開催した。

本講座は次代を担う部課長として、企業のおかれた状況を正しく認識し、会社方針に基づいて自らの役割を果たすために問題点の発見とその改善方法について実践的に学ぶもの。

まず、玉川大学工学部経営工学科教授　小野道照氏から「問題の構造をとらえる鍵」と題して、組織の仕事の質を高めるためのＰＤＣＡ・ＳＤＣＡサイクルの回し方を理解し、実践することが大切と学んだ。

となみの工業㈱代表取締役社長　棚邊一雄氏からは「部課長のマネジメント」と題して、この講座は「イモ洗い」の場。互いに一皮むけてほしい。リーダーの資質として部下をひとりの人間として任せる、仕事で

追い込むことが成長につながることを学んだ。

特別講演として、コーセル㈱取締役会長　飴久晴氏から「部課長に望むこと」と題して、部下育成に際し「耳は大きく、口は小さく、眼はやさしく」など、先人の知恵と自らの経営者としての経験談などを聞いた。

グループディスカッションでは、「変革の時代を担う部課長の役割」をメーンテーマとし、異業種、異職種のメンバーで部課長としての問題点の認識とサブテーマ決めを含めたストーリー展開にかなり苦労したが、講師・世話人の指導を受け、受講者は手応えをつかんで講座を修了した。

（「参加者NOTES」15頁掲載）

参加者ＮＯＴＥＳ

教育委員会

「女性社員キャリアアップセミナー」を受講して

燐化学工業株式会社
技術開発部　開発グループ　作道　千枝

セミナーには女性54名が参加されました。私の会社では男性が多く、普段の職場では見られない光景だったため、少し緊張しながら受講しました。

まず印象的だったのは、講師の岡野先生がとても輝いて見えたことです。子育てをしながら定年近くまでビジネス実務学科の教授を務めておられ、イキイキとされていました。どんなことでも前向きに考えて、それを口に出すことで実行できるというお話は、とても説得力があるように感じました。

セミナーで学んだことは、毎日少しずつでも自分を変えていこうと努力をすることがキャリアアップに繋がるということです。「過去と他人は変えることができない」のであれば、未来と自分を変えるしかないことを心の片隅に置いておきたいと思いました。これからは日々の仕事を進めるだけでなく、自分のやり方で仕事を進めていきたいと思います。

私は入社７年目になりますが、中堅社員と呼ぶにはまだまだ力不足です。仕事の進め方について、スケジュール管理や問題意識を持つことなど改善点は幾つもあります。今回のセミナーでは、会社ではなかなか詳しく教えてもらえない仕事の進め方を学ぶことができました。

また、６人のグループになって現在の仕事での悩みを打ち明け、解決策について話し合いました。皆さんが大なり小なり悩みを持ちながら働いていることに共感し、心強ささえ感じました。県内に同じように働く女性が多くおられることを知り、とても励みになりました。

キャリアアップには知的体力と夢が必要であり、自分を知る、未来を描く、自分を磨く努力をしなければならないとのことでした。それらを毎日少しずつでも積み重ねていきたいと思います。

■TQM経営者トップミーティング

９月２日(金)、18名が参加して、富山第一ホテルで開催した。

今年度新たに企画した講座で、企業役員を対象に、品質経営、ＴＱＭ、経営トップの役割などについて、優良企業のトップから実際の事例を学び、自社において活動を実践することで、売上増大、利益の向上につなげていけるよう、そのための指針やヒントをつかむことをねらいとしている。

第１回講師は、常に高利益率を維持しているヒロセ電機㈱社長　中村達朗氏を招いて、「品質を上げればコストは下がる」と題して講演をいただいた。引き続き４グループに分かれて「グローバル化における品質保証」などのテーマについてグループディスカッションを行った。

企業役員である参加者は、各々の経営課題について講義・グループディスカッションを通して方向性を見出していた。

環境委員会

■幹事会

８月９日(火)、白江副委員長はじめ幹事10名が出席して、富山経協・研修室において開催した。

白江副委員長挨拶の後、「2011年度の中間事業報告と今後の活動予定」について審議し、①10月開催予定の県内企業見学研修会は北陸電力㈱変圧器リサイクルセンターと佐藤鉄工㈱本社工場を見学先として事務局で調整する、②東日本大震災の影響で開催を見合わせた地球温暖化対策セミナーについては、再生可能エネルギー法案の動向等を見ながら調整していくこととした。

■県外企業見学研修会

８月３日(水)、白江副委員長はじめ29名が参加し、小松精練㈱（能美市）とニッコー㈱（白山市）を見学した。

参加者ＮＯＴＥＳ

品質管理委員会

「部課長マネジメントコース講座」に参加して

中越合金鋳工株式会社
製造部　連続鋳造二課　課長　中田　剛志

今回、本講座を受講するに当たって、事前に過去に参加した人達の話を聞いていたので、肉体的・精神的に大変な講座であることは覚悟していました。ただ、大変であるからこそ得るものも大きいと思い、不安と期待、両方の思いを持って参加しました。

講座は講義とグループディスカッションで構成されており、講義については、玉川大学の小野先生から「問題の構造をとらえる鍵」、となみの工業㈱の棚邊社長から「部課長のマネジメント」、コーセル㈱の飴会長から「部課長に望むこと」がそれぞれあり、語られる言葉すべてが長年の経験から出ており、一言一言が非常に重みがありました。特に印象的な言葉として、『部課長は、部下に何でその課題（問題）に取り組まなければならないのかを理解させる必要性がある』、『部下の能力を引き出すのは部課長の責任である』『それらを実行させるためには、自分が変わらなければならない』と、自分に不足していることがたくさんあることを再認識させられました。

この講座の目玉でもある、グループディスカッション(G.D.)では、異業種の同じ立場の人たちとの交流で２日間、夜遅くまで討議を重ね、問題の共有化、解決に向けた問題の本質的な要因の掘り下げの重要性、自責(自分の立場)の念で問題解析をすること(問題があるのを部下や他人のせいにするのではなく、なぜいろんな問題が出てくるのかを部課長の立場で考える必要性)などを知ることができました。ＧＤは大変有意義なものでしたが、自社の問題解決に当てはめてみると、常に自分(部課長)の立場で考え、取り組み、部下の力を信じて一体となって進めることができていなかったと反省しています。また、部下において、人はそれぞれ違うし、長所、短所いろいろあるが、短所ばかりを見るのではなく、長所をいかに伸ばすかを念頭において取り組むことができていなかったので、今回の講座で学んだことを生かし、今後そのような観点で仕事に取り組んで行きたいと思います。

ポリエステル繊編物の精練・染色・捺染加工等の小松精練㈱では、同社の概要と環境への取り組みに関する説明を受けた。きめ細かな省エネで約8,300kWh/日の節電を達成。自家発電燃料のＬＮＧ化や排水処理過程で発生する汚泥に珪藻土を混ぜて屋上緑化、壁面緑化に利用できる基盤の製作にも取り組んでいる。

ニッコー㈱では、硬質陶器の技術者の提案から、小型風力発電機の製造・販売事業を展開している。定格出力200Wから10kWまでの５機種をラインナップして生産。東日本大震災後は停電時の非常用電源としての問合せが増加しており、今後のコストダウン、発電効率の向上を期待されている。

他社の環境への取り組みを肌で感じられる見学会となった。

（「参加者NOTES」16頁掲載）

■富山県生活環境文化部との情報交換

８月26日（金）、29名が参加して富山経協・研修室で実施した。

環境政策課　中山係長より「地球温暖化対策等に関する県の取組みについて」、環境保全課　中島課長補佐より「環境保全施策の動向について」、（財）環日本海環境協力センター調査研究部 九澤次長より「環日本海地域における環境保全の取組みについて」、森林政策課 山下副主幹より「水と緑の森づくりの取組みについて」と題して、環境行政に関する講演をいただいた。

（講演要旨は８頁掲載）

文化交流委員会

■定例委員会

８月10日（水）、桑名委員長はじめ委員14名の出席により、明治安田生命富山ビルで開催した。委員長挨拶の中で、新副委員長に島谷浩司氏（北日本放送）が就任したとの報告があり、この後、次の議案について協

参加者ＮＯＴＥＳ

環境委員会

「県外企業見学研修会」に参加して

金森産業株式会社
取締役社長室長　金森　洋平

「環境」か「ビジネス」か。こうした図式はよく聞かれます。今回訪問させていただいた小松精練㈱様とニッコー㈱様に共通するのは、こうした二項対立を超えて、自社の事業の延長線上に「環境」を「ビジネス」にされている点にあります。

小松精練㈱様は、ポリエステル繊編物の精練・染色・捺染加工、ＤＩＭＡ（複合薄膜ファブリック）の分野で日本を代表する企業です。

同社では天然ガスを用いた自家発電を行い、エネルギーの効率的な利用とコストダウンを実現されています。また、ＬＥＤ照明への更新や、電動機のメンテナンス等により数千kwh/日の節電を図っています。こうした「環境」と「コストダウン」の両立に加えて、同社の排水処理で発生する汚泥を粘土等と合わせて焼き上げ、壁面や屋上の緑化に用いられる多孔質のセラミック基板として製品化されています。屋上や壁面の緑化の普及した社会を描いたジオラマがショールームに用意され、ご説明いただいた髙木専務の活き活きとした表情からこの事業に掛ける同社の意気込みを強く感じました。

ニッコー㈱様は、九谷焼の技術を活かした洋食器メーカーとして、前田家の出資を得て創業された石川県らしい由緒ある企業です。現在では、洋食器に加え、電子セラミック、住設機器に事業領域を広げていますが、いずれも陶器の技術から派生したものです。

同社は住設機器のＦＲＰ成型技術を活かして小型風力発電機の製造・販売を手掛けています。小型風力発電機はモニュメント的に設置されることが多いことから、同社の洋食器のデザインセンスを活かしてクジラをモチーフとしたデザインを採用するなど、機能以外の付加価値を付与されています。小型とはいえなかなか値の張る商品で、今後の普及・量産によるコストダウンが期待されます。

自社の環境負荷を低減するだけでなく、自社の強みを活かして環境ビジネスに進出する先進的な事例を見学し、大変有意義な視察でした。

議した。

(1) 富山経協の現状

事務局より会員推移および事業活動の現況について説明を行った。

(2) 今後の事業予定について

事務局より説明し、９月のゴルフコンペ、11月のボウリング大会は計画通りに開催することを報告。

文化講演会については、富山を舞台にした映画「RAILWAYS２」関係者をとの案により、事務局で検討することとした。（その後、11月開催の「東部地区会員懇談会」に製作総指揮の阿部秀司氏を講師に招くことで、事務局で調整を進めている）

■企業見学会

８月10日(水)、定例委員会に先立ち、14名で明治安田生命富山ビルを企業見学した。

最初に、明治安田生命富山支社長の岡島清隆氏から「安田善次郎物語」と題した講話で、後の大財閥に導く創業者安田善次郎氏の足跡や、地元富山への貢献の逸話などを聴いた。その後、２階の記念展示室で、功績を紹介するＤＶＤを鑑賞し、それらを裏付ける資料や人柄を偲ばせる身の回り品や文書を見学した。参加者一同、富山が生んだ大実業家への認識を改めて確認した。

■第116回会員交流ゴルフコンペ

９月10日(土)、呉羽カントリークラブ（立山コース）で開催し、16名が熱戦を繰り広げた。

今回は、㈱チューリップテレビ社長の島倉正氏がネット70で優勝を飾った。

【上位結果】（敬称略）

優　勝　島倉　正（チューリップテレビ）
準優勝　富田文男（北陸電気工事）
３　位　石塚　携（富山アメニティシステム）
４　位　島谷浩司（北日本放送）
５　位　蓮池浩二（リッチェル）

優勝の島倉氏

新会員紹介

（五十音順）

■ 社会福祉法人 秀愛会

所 在 地　富山市稲代1023
代 表 者　理事長　澤田　秀夫
創　　業　1998(平成10)年４月
従 業 員　75名
事業内容　障害児施設、ケアハウス、保育所

■ 株式会社 スクールエー

所 在 地　富山市上本町7番3号
代 表 者　代表取締役　清水　哲朗
設　　立　1967(昭和42)年５月
資 本 金　1,000万円
従 業 員　10名
事業内容　学校制服の販売

■ 株式会社 明文堂プランナー

所 在 地　富山市経堂123－４
代 表 者　代表取締役社長　清水　満
設　　立　1945(昭和20)年
資 本 金　４億3,247万円
従 業 員　50名
事業内容　書籍・文具等の販売、ＤＶＤ/ビデオ・ＣＤ等のレンタル及び販売、コーヒーチェーンの運営、富士ゼロックス・ＯＡ機器の販売

■ 社会福祉法人 わかば福祉会

所 在 地　富山市堀川町455番地
代 表 者　理事長　小島　葉子
設　　立　1968(昭和43年)年４月
従 業 員　100名
事業内容　乳幼児の保育、小学生の放課後・長期休暇の保育

会員の動き

（五十音順）（敬称略）

■ 代表者の変更

川田工業株式会社
専務取締役　　川田　紳一（前：川田忠樹）

三協化成株式会社
代表取締役社長　枡田　秀和（前：一島正明）

ショウワノート株式会社
高岡工場長　　安部　隆之（前：宮前英明）

株式会社 新日軽北陸
取締役社長　　板橋　繁雄（前：飯島　晋）

日本海産商株式会社
代表取締役社長　大橋　哲夫（前：陶山泰史）

株式会社 ホテルアクア黒部
代表取締役社長　小林　聖子（前：森野泰夫）

三谷産業株式会社　空調事業部富山支店
支店長　　上嶋　修（前：清水　譲）

ミドリ安全富山株式会社
代表取締役　　忠内　敏也（前：柳原健悟）

八雲インズ株式会社
代表取締役社長　北川　繁明（前：鈴木成紀）

■ 役職位の変更

コーセル株式会社
取締役会長　　町野　利道（前：代表取締役社長）

■ 社名の変更

日本セック株式会社
（前：セト電子工業株式会社）

表紙の花
スイフヨウ

スイフヨウ（酔芙蓉）は中国原産の園芸植物フヨウ（芙蓉）の八重咲き品種です。花は一日花で、朝咲いた時には純白ですが次第にピンクに色づき、咲き終わる夕方には赤くなることから、酒に酔ったように色が変化するということで酔芙蓉と名づけられました。写真は昼頃、ちょうど白とピンクが混じって見られる頃に撮影したものです。最近は一重や、一つの花の中に赤と白が混じるくす玉咲きといった品種も見られます。

植物園ではフヨウとスイフヨウを並べて植栽し、比べて見ることができるようにしています。フヨウの花を見ると、先が５つに分かれた長い雌しべと、その周りにブラシ状の多数の雄しべがあることから、ハイビスカスと同じ仲間（アオイ科）であることがわかります。フヨウは西日本の暖地では野生化していることもあり、本来は高さ３ｍになる低木です。スイフヨウは寒さにやや弱く冬に枝枯れを起こすため、植物園では晩秋に地上部を切って越冬させ、毎春新梢を出させるという多年草的な管理をしています。鉢植えで楽しむ場合は、枝を剪定して冬は玄関先などに取り込む方がよいでしょう。

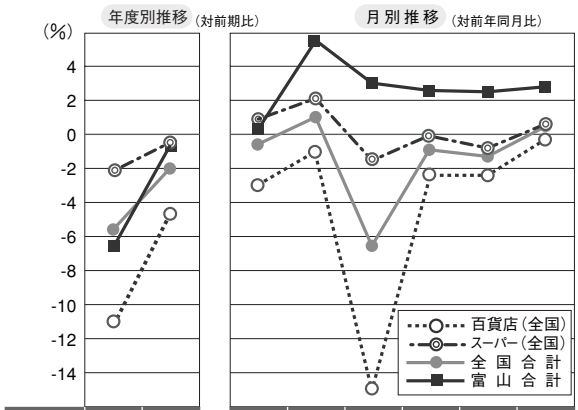
スイフヨウは「おわら風の盆」が舞台となる高橋治の小説『風の盆恋歌』に登場します。小説がテレビドラマで紹介されたことや、石川さゆりの同名の歌に歌われたことがきっかけですっかり有名になりましたが、八尾の街でよく見られるようになったのは、実はドラマの放映後だということです。小説や歌のイメージから、「おわら」の頃に花が咲いていると思われますが、フヨウが８月下旬から咲き始めるのに対し、スイフヨウの花は２週間ほど遅く９月中旬からなので、残念ながら「おわら」にスイフヨウの花を見ることはできません。

（富山県中央植物園　中田政司）

フヨウ

景況指標

■百貨店・主要スーパーの売上高

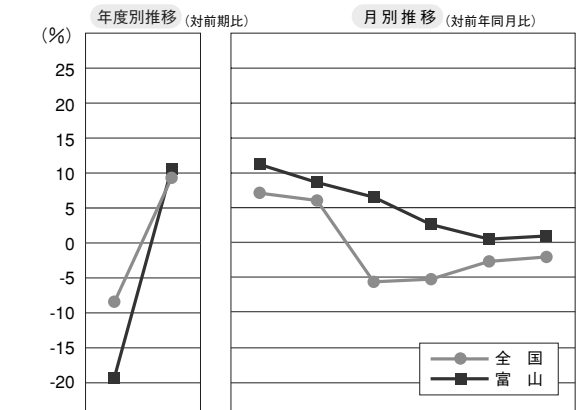


年月		2009	2010
全国	百貨店	▲11.2	▲4.7
	スーパー	▲2.1	▲0.5
	合計	▲5.6	▲2.1
富山合計		▲6.5	▲0.6

2011.1	2	3	4	5	6
▲3.0	▲1.1	▲15.4	▲2.4	▲2.4	P▲0.3
0.9	2.1	▲1.5	▲0.1	▲0.7	P 0.8
▲0.6	1.0	▲6.5	▲0.9	▲1.3	P 0.5
0.3	5.6	3.0	2.6	2.5	P 2.8

（注）年補正済のデータである。　（p＝速報値）　（出所：中部経済産業局）

■大口電力消費量（製造業計）

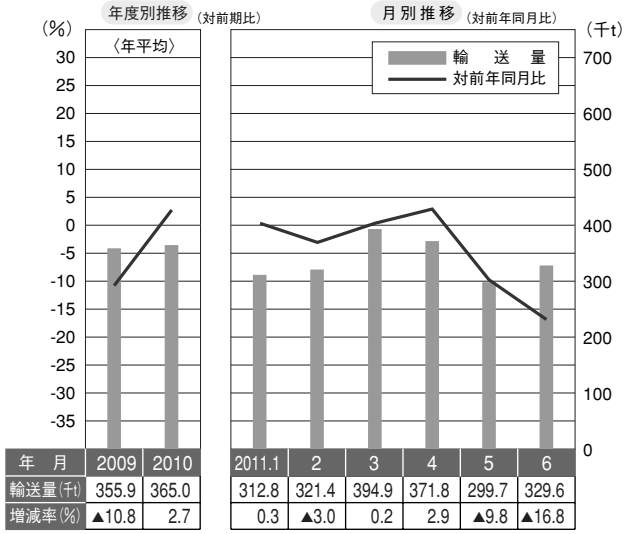


年月	2009	2010
全国（%）	▲8.5	9.3
富山（%）	▲19.4	10.7

2011.1	2	3	4	5	6
7.1	6.0	▲5.6	▲5.2	▲2.6	▲2.0
11.1	8.7	6.5	2.9	0.6	1.0

（出所：電気事業連合会／北陸電力）

■一般貨物自動車輸送量（富山県内）

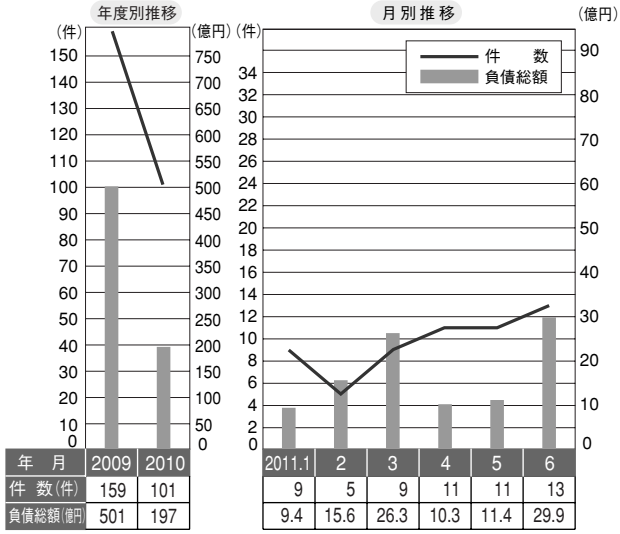


年月	2009	2010
輸送量（千t）	355.9	365.0
増減率（%）	▲10.8	2.7

2011.1	2	3	4	5	6
312.8	321.4	394.9	371.8	299.7	329.6
0.3	▲3.0	0.2	2.9	▲9.8	▲16.8

（出所：富山運輸支局）

■企業倒産（富山県内）（件数と負債総額）

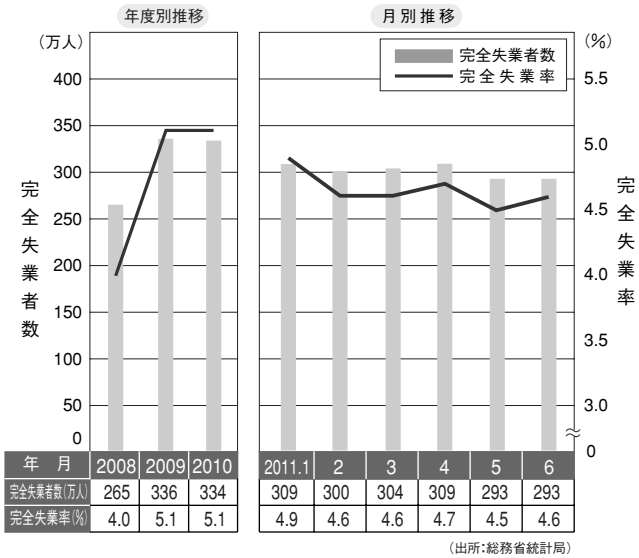


年月	2009	2010
件数（件）	159	101
負債総額（億円）	501	197

2011.1	2	3	4	5	6
9	5	9	11	11	13
9.4	15.6	26.3	10.3	11.4	29.9

（出所：東京商工リサーチ）

■完全失業者数及び完全失業率（季節調整値）

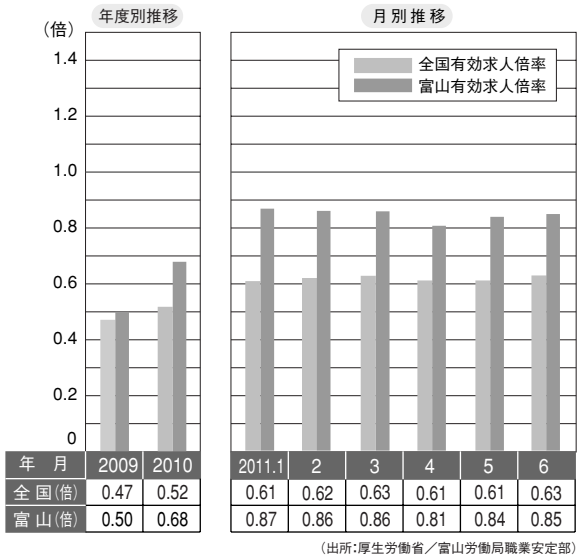


年月	2008	2009	2010
完全失業者数（万人）	265	336	334
完全失業率（%）	4.0	5.1	5.1

2011.1	2	3	4	5	6
309	300	304	309	293	293
4.9	4.6	4.6	4.7	4.5	4.6

（出所：総務省統計局）

■有効求人倍率（パートを含む季節調整値）



年月	2009	2010
全国（倍）	0.47	0.52
富山（倍）	0.50	0.68

2011.1	2	3	4	5	6
0.61	0.62	0.63	0.61	0.61	0.63
0.87	0.86	0.86	0.81	0.84	0.85

（出所：厚生労働省／富山労働局職業安定部）

INFORMATION
（事業案内）

人事・労務政策委員会

人事・労務管理セミナー（第3回）

メンタルヘルス、セクハラ、パワハラなど今日的な問題について、管理監督者を対象に就業管理のあり方についてわかりやすく解説。

■日　時：10月12日（水）　13:30～16:30
■場　所：富山県経営者協会　研修室
■講　師：加納人事労務研究所
　　特定社会保険労務士　加納　明夫
■受講料：会員 9,000円／会員外 18,000円

労働法実務研修会（第3回）

最近の労働法関連の法律問題や使用者の留意点について、判例、事例を通してわかりやすく解説指導。

■日　時：11月17日（木）　13:30～16:00
■場　所：富山商工会議所ビル 9 階　99会議室
■講　師：弁護士　木下　潮音
■受講料：会員 3,000円／会員外 16,000円

教育委員会

若手社員活性化コース

企業環境が激動する中、「仕事のできる創造型人間」「積極的挑戦型人間」を育成する。

■日　時：10月14日（金）　9:30～16:30
■場　所：富山商工会議所ビル 9 階　99会議室
■講　師：マネジメント・アドバイザー
　　元（財）日本生産性本部参与
　　松田　勝明
■受講料：会員 9,000円／会員外 18,000円

管理者基礎コース

異業種交流を通して管理者の課題解決を図る。

■日　時：11月11日（金）・12日（土）
　　9:30～15:00
■場　所：インテック大山研修センター
■講　師：（財）日本生産性本部
　　認定コンサルタント　市川　　登
■受講料：会員 32,000円／会員外 60,000円

事務・間接（スタッフ）部門の効果的な業務改善の進め方

事務・技術系業務の改善や仕事の質の向上をめざし、業務プロセス改善の着眼点や適用しやすい改善手法を、ツールや事例、異業種交流を通じて学ぶ。

■日　時：10月18日（火）　9:30～16:30
■場　所：富山商工会議所ビル 9 階　99会議室
■講　師：（社）中部産業連盟
　　上席主任コンサルタント　渡辺　季幸
■受講料：会員 13,000円／会員外 26,000円

コスト改善力実践コース

製造部門において必要な原価情報の出し方、コストダウンの狙いどころ、コストダウンの実践・実務まで、体系的に指導する。

■日　時：11月16日（水）　9:30～16:00
■場　所：富山商工会議所ビル 9 階　99会議室
■講　師：ＭＥマネジメントサービス
　　常務取締役　技術士　小川　正樹
■受講料：会員 13,000円／会員外 26,000円

環境委員会

県内企業見学研修会

■日　時：10月13日（木）　13:00～17:00
■場　所：北陸電力㈱変圧器リサイクルセンター
　　（13:00～14:30）
　　佐藤鉄工㈱　（15:30～17:00）
■参加費：2,000円
■定　員：25名（先着順）

事例発表会

■日　時：11月24日（木）　14:00～16:00
■場　所：富山商工会議所ビル 9 階　99号室
■テーマ：「環境への取り組み事例紹介」
■発表者：環境委員会情報交換会メンバー
■参加費：無料
■定　員：50名（先着順）

お申し込みはホームページ
http://www.toyama-keikyo.jp/ からお願いします。

品質管理委員会

品質トラブル未然防止セミナー

■日　時：10月７日(金)　9:30～16:30
■場　所：富山商工会議所ビル９階　99号室
■講　師：中央大学理工学部経営システム工学科
　　教授　中條　武志
■受講料：会員 12,000円／会員外 24,000円
■定　員：40名（先着順）

県外企業見学研修会

■日　時：10月26日(水)～27日(木)
■場　所：コマツ　粟津工場
　　福井鋲螺㈱　加賀工場
■参加費：20,000円
■定　員：20名（先着順）

ISO9001内部監査員養成コース

■日　時：11月９日(水)　9:30～17:00
　　11月10日(木)　9:00～16:30
■場　所：富山商工会議所ビル９階　99号室
■講　師：㈱ダイナテック
　　ISOコンサルタント　小紙　浩
■受講料：会員 20,000円／会員外 40,000円
■定　員：30名（先着順）

人材の確保・従業員の再就職をお手伝い！

事業の拡大・欠員補充等による人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、お気軽にご相談ください。

（2011年４月「東日本大震災出向等支援対策本部」を設置し活動中）

since 1987　出向・移籍（転籍）の専門機関

財団法人 **産業雇用安定センター**

〒930-0857　富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F
ご利用時間／9：00～17：00（土・日・祝日は休み）
TEL 076-442-6900
FAX 076-439-2860
インターネットで最新の人材情報をどうぞ **http://www.sangyokoyo.or.jp/**

おしらせ

東部地区会員懇談会

11月11日(金)
（別途ご案内申し上げます）

場所：ホテルグランミラージュ
17:40～18:40　講演会「映画先進県へのすすめ」
講師：阿部　秀司 氏
（映画「RAILWAYS」製作総指揮）
18:50～20:00　懇 親 会

行　事　予　定

2011年9月15日～11月30日

詳しくはホームページ（http://www.toyama-keikyo.jp/）「講座・講演案内」をご覧ください。

	開　催　日	時　間	事　業　名	委員会名	場　所	備　考
会議	9月16日(金)	16:30～18:30	労働法関連法制研究部会(第2回)	人事･労務政策	富山経協･研修室	
	9月26日(月)	16:00～17:30	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	富山経協･研修室	
	10月 6日(木)	13:00～15:00	連合富山との協議会	経営特別	富山商工会議所ビル	
	11月11日(金)	17:00～	政策委員会		ホテルグランミラージュ	
	11月11日(金)	17:40～	東部地区会員懇談会		ホテルグランミラージュ	上記おしらせ参照
	11月17日(木)	16:30～	労働法関連法制研究部会(第3回)	人事･労務政策	富山経協･研修室	
	11月28日(月)	13:30～	富山県工業教育振興会60周年記念式典		富山電気ビル	
セミナー・講座	9月15日(木)	13:30～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協･研修室	10月6日(木)にも開催
	9月16日(金)	13:30～16:00	労働法実務研修会(第2回)	人事･労務政策	富山商工会議所ビル	
	9月16日(金)	13:00～16:00	品質工学実践講座	品質管理	富山経協･研修室	10月14日(金)にも開催
	9月16･17日(金･土)	9:00～13:00	管理職マネジメント研修	教　育	富山県農業総合研修所	10月21､11月18日にも開催
	9月21･22日(水･木)	9:30～16:30	ヒューマンエラー対策講座	品質管理	富山県市町村会館	
	9月21(水)､27日(火)	9:00～17:00	品質管理入門コース講座(第2回)	品質管理	富山経協･研修室	
	9月27日(火)	13:00～17:30	企業理念見学会	経営特別	武内プレス工業㈱	
	9月27日(火)	13:30～16:30	改善力養成セミナー(基礎編)	教　育	富山商工会議所ビル	
	9月27･28日(火･水)	9:30～18:00	ISO14001内部環境監査員養成講座	環　境	富山商工会議所ビル	
	9月28日(水)	9:30～16:30	経理･財務の基礎コース	教　育	富山商工会議所ビル	
	10月4･5日(火･水)	9:30～16:30	第1回係長･主任基礎コース	教　育	富山商工会議所ビル	
	10月 7日(金)	9:30～16:30	品質トラブル未然防止セミナー	品質管理	富山商工会議所ビル	21頁INFORMATION参照
	10月12日(水)	13:30～16:30	人事･労務管理セミナー(第3回)	人事･労務政策	富山経協･研修室	20頁INFORMATION参照
	10月13日(水)	13:00～17:00	県内企業見学研修会	環　境	北電変圧器リサイクルセンター、佐藤鉄工	20頁INFORMATION参照
	10月14日(金)	9:30～16:30	若手社員活性化コース	教　育	富山商工会議所ビル	20頁INFORMATION参照
	10月18日(火)	9:30～16:30	事務･間接(ｽﾀｯﾌ)部門の効果的業務改善の進め方	教　育	富山商工会議所ビル	20頁INFORMATION参照
	10月26･27日(水･木)		県外企業見学研修会	品質管理	コマツ粟津工場、福井鋲螺加賀工場	21頁INFORMATION参照
	11月 9･10日(水･木)	9:30～17:00	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	富山商工会議所ビル	21頁INFORMATION参照
	11月11･12日(金･土)	9:30～17:00	管理者基礎コース	教　育	インテック大山研修センター	20頁INFORMATION参照
	11月14日(月)	13:30～16:30	品質管理委員会「講演会」	品質管理	富山商工会議所ビル	
	11月16日(水)	9:30～16:00	コスト改善力実践コース	教　育	富山商工会議所ビル	20頁INFORMATION参照
	11月17日(木)	13:30～16:00	労働法実務研修会(第3回)	人事･労務政策	富山商工会議所ビル	20頁INFORMATION参照
	11月24日(木)	14:00～16:00	事例発表会	環　境	富山商工会議所ビル	20頁INFORMATION参照

「富山経協」vol.796
2011年（平成23年）9月号
2011年9月15日発行（隔月〈奇数月〉15日発行）

社団法人 富山県経営者協会
〒930-0083　富山市総曲輪2丁目1番3号（富山商工会議所ビル 別館5階）
TEL（076）421-9588　FAX（076）421-9952
ホームページ　http://www.toyama-keikyo.jp/
Eメール　info@toyama-keikyo.jp